

# 仮説吟味学習により多面的な解釈形成をめざす 歴史学習の授業開発

— 小学校社会科第6学年単元「参勤交代」の場合 —

阿久津 理\*・岡崎 誠司

Hypothesis Examination in Learning History of the aim of  
multilateral interpretation in Elementary Schools :  
A Case of the Unit on “Sankinkoutai” in the Sixth Grade

Osamu Akutsu\*, Seiji Okazaki

キーワード：仮説吟味学習，参勤交代，小学校社会科，歴史学習，単元開発

keywords：Hypothesis Examination, Sankinkoutai, Learning Social Study in Elementary Schools, Learning History, Development of a Learning Unit

## I 問題の所在

「歴史」といわれる「事実」は、誰にもわからない。なぜなら、現代社会に生きている誰も、過去に生じた歴史的事象を自分の目で見たり聞いたりできないからだ。通常、「歴史」といわれるものは、過去の先人がかいたもの、例えば文章や絵画に基づく。わたしたちが現在目にすることができる文章や絵画は、「かいた人の解釈」に基づいている。「解釈」は、「かいた人」の数だけ存在することになるのだから、「歴史」は複数存在することになる。それなのに、「歴史学習」において子どもたちは、特定の解釈を、それしか存在しない絶対的な「事実」であるかのように注入されている。本来在るべき「歴史学習」とは、歴史的事象に対して、子ども自身が複数の解釈を見いだし、他者との意見交換を通して、少なくとも今の時点では自分にとって妥当と思われる解釈を見いだす学習である。

「小学校歴史学習において子どもが自らの解釈を形成し、説明・論述することのできる単元は、どのように構成すると良いのか」これが、本研究の問題意識である。「それは、仮説吟味学習によってこそ、実現できるであろう」これが、研究仮説である。

現在、小学校社会科歴史学習の抱えている最大の問題は、子どもの主体的学習が保障されていないこ

とである。歴史的事象についての解釈が教師や教科書によって示されることはあっても、子ども自身が解釈をして、お互いの解釈を吟味することがない。ここでは、第6学年単元「徳川家光と江戸幕府」の展開（案）をみてみよう。多くの実践では、子どもの学習は、教師から与えられた資料の読み取りにとどまっており、子どもは特定の解釈を表現するよう導かれている。例えば<sup>1)</sup>、学習問題「家光は、どのようにして幕府の力を強めていったのだろうか」のもと、子どもは、絵画資料「加賀藩大名行列図屏風」や「家光の人物年表」「大名の配置図」の読み取り後、家光の果たした役割を「大名、百姓や町人、キリスト教信者などをおさえ、幕府の力を強めた」という特定の解釈を持つよう期待されている。多くの実践<sup>2)</sup>では、参勤交代の目的を「大名の経済力弱体化」という特定の解釈で捉えさせている。

多くの教育現場では、理解型授業が実践されているだろう。理解型授業では以下のように展開される<sup>3)</sup>。〈①問題状況の把握〉家光の生い立ちを調べさせ、幕府成立後間もないことや強い大名の存在など具体的な状況を把握させる。〈②目的（願い）の確認〉家光に感情移入させ、家光の願い・行為の目的を確認させる。〈③行為の予想と検証〉家光の立場に立って政策を目的手段の関係から理解させる。〈④行為の社会的意味の把握〉参勤交代など、家光の行為の社会的意味を意見交換させる。このような授業の問題は、子どもを家光に共感的に理解させ、

\*富山大学人間発達科学部附属小学校 教諭

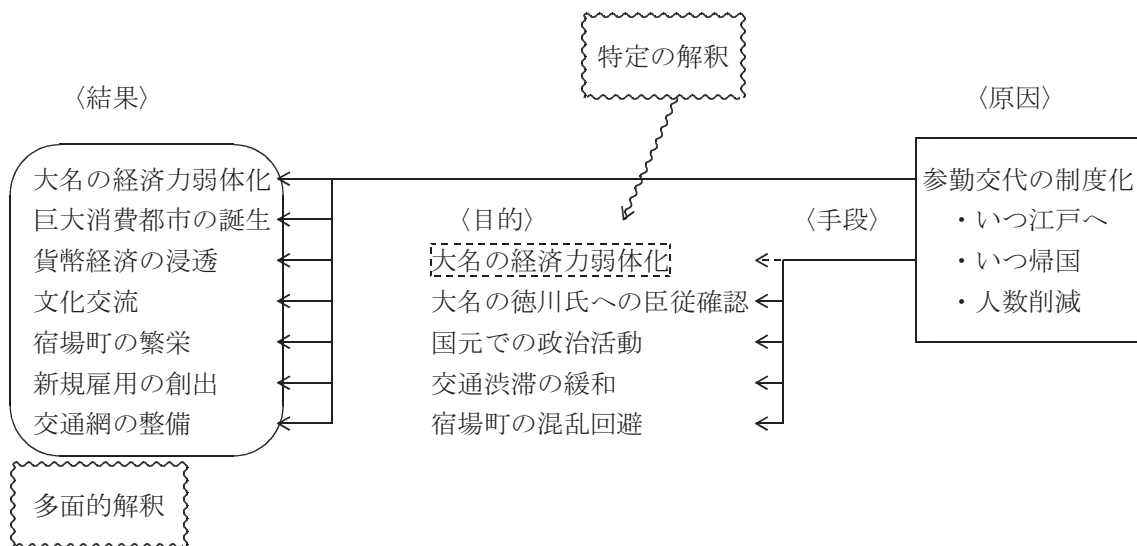


図1 参勤交代の目的手段関係と因果関係

例えば、「家光の大名などをおさえる政策により世の中は安定した」というプラス評価の解釈を一律に子どもに獲得させる傾向にある。

図1の右半分は、参勤交代を目的手段の関係で表したものである。参勤交代は手段であって、その目的は「大名の経済力弱体化」であるとする解釈は、一面的かつ特定の解釈に過ぎない。

参勤交代の目的は、「大名の徳川氏への臣従確認」をはじめとした5つである<sup>4)</sup>。それより重要なのは、参勤交代が原因となって、「大名の経済力弱体化」をはじめとした7つの事象が生じたことではないか。なぜなら、こういった多面的解釈こそが江戸時代の特徴であるからだ<sup>5)</sup>。

小学校歴史学習において、「子どもが多面的な解釈を形成する」言い換えれば「子どもの主体的な解釈形成を保障する」には、子どもが持っている解釈を個の視点から社会の視点へとレベルアップする授業すなわち仮説吟味学習が有効である。これが、本研究で提案したいことである。ただ単に、子どもが自らの解釈を持つだけであれば、簡単である。なぜなら子どもは、何らかの情報を得ており、それぞれ「自分なりの解釈」を持っているからだ。しかし、『小学校学習指導要領解説 社会編』にある「社会的な見方や考え方を成長させる」ことを実現しようとするとき、解釈は、授業開始時に比べて、授業終了時にはレベルアップしていなければならないだろう。そのレベルアップを、仮説吟味学習<sup>6)</sup>によって実現したい。

## II 多面的な解釈形成と子どもの認識

### 1 政策批判による多面的な解釈形成

子どもの多面的な解釈は、社会的な判断場面こそ明らかになるだろう。社会的判断力は、尾原康光氏によると2つの立場に分けられている。1つは、社会的問題の合理的な解決策、あるいは合意形成可能な解決策をつくりだしていく能力（政策形成能力）ととらえるもの。2つ目は、解決策を評価する能力（政策批判能力）である<sup>7)</sup>。本実践では、社会的判断力を後者と捉え、参勤交代を評価する場面を設定する。

一面的な解釈であれば、幕府の目的と手段は整合性の高いものと受け止められるであろう。しかし、多面的な解釈ができたならば、「加賀藩の農民にとって」、「江戸の町人にとって」など、複数の立場から参勤交代を総合的に評価することができるだろう。

このような学習の場を設けることで歴史学習における多面的な解釈を形成することができるであろう。

### 2 視点移動による認識の変容

本小単元で子どもたちが学ぶ参勤交代は、江戸幕府の政策の1つであり、この政策によって大名の経済力をそぐことができたとされている。この認識は幕府の立場に立って参勤交代という社会的事象をみた結果、図2のように形成されるものである。幕府が参勤交代を強制的に継続することで、大名は不満を抱えながらも逆らうことができず、経済的な負担を強いられるという政策であったことを認識し

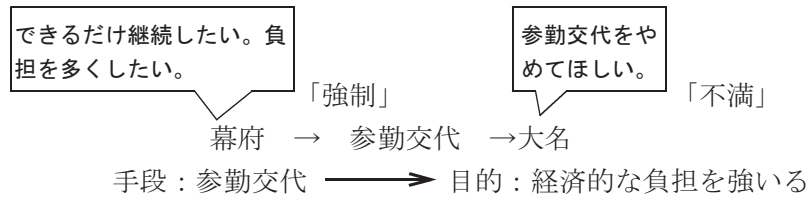
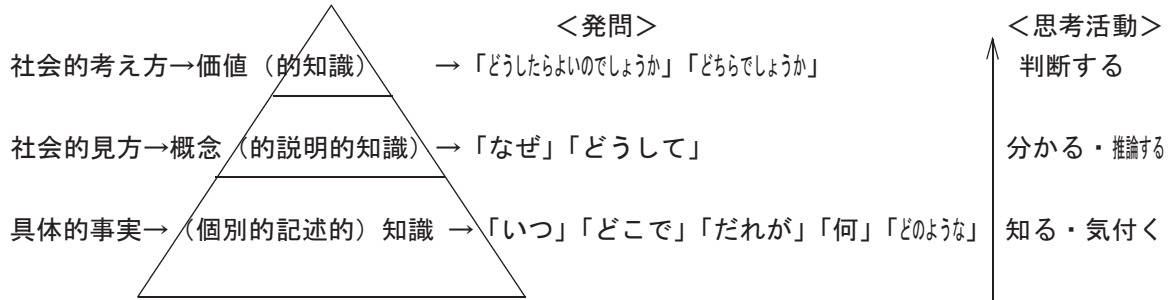


図2 幕府の視点から参勤交代を捉え、形成される子どもの認識



引用『見方考え方を成長させる社会科授業の創造』岡崎誠司 2013

図3 社会的見方・考え方と発問・思考活動との関係

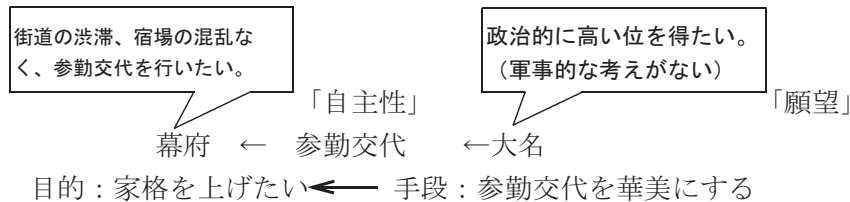


図4 大名の視点から参勤交代を捉え、形成される子どもの認識

ていく。しかし、これは幕府の立場だけから事象をみたものであり、一面的な解釈である。図3の問いの構造でみるとこの解釈は、具体的事実を問う「どのように」を用い「幕府はどのようにして大名を従えていったのでしょうか」という学習問題のもと、学習活動が行われ、「幕府は、参勤交代という手段によって、経済力を奪い、大名を従えていった」という個別的記述的知識の獲得と同時にされる。そこで、大名の立場から事象をみることができるように学習を展開する。具体的には「武家諸法度」の「参勤交代の人数が多すぎるので、少なくすること」という記述を取り上げる。この決まりは、図2の構造で参勤交代を捉えた場合、矛盾が生じる。大名側から人数を多くすることは幕府にとって都合のよいことであるからだ。この事実と子どもが出会うことによって図3に示したように社会的見方につながる問い「なぜ」を生むことができるであろう。そして視点移動を行い、大名の立場に立って参勤交代をみることで、図4のように大名が願望をもって参勤交代を行い、幕府はその自主性を生かしながら渋滞や混乱をさけ、継続していた政策であったこと

を認識していく。これは、図3の思考活動での「分かる」に当たり、子供たちにとって当時の政治の様子が分かることになり、社会認識が行われることになる。

このような学習を行うことで概念的説明的知識を獲得し、本小単元の該当する学習指導要領6年の内容(1)オ「武士による政治が安定したこと」<sup>8)</sup>の中身を「江戸時代の諸大名には軍事的な目的はなく、幕府による安定した政治の中で政治的に高い位につきたい」という戦国時代とは異なった大名の心の変化という具体的な事象と関わらせて認識できるようにしたい。そして、子どもたちが、参勤交代は結果として経済や文化の発展に寄与したことに気付き、次の単元に問題意識が継続できるようにしたい。

### Ⅲ 仮説吟味学習による「参勤交代」の単元構成

本単元は仮説吟味学習によって構成する。仮説吟味学習とは、「児童が教育内容に関わる自らの問題を設定するとともに、問題に対する根拠ある仮説を

設定し、児童自身が、その正当性・合理性を個人の側と社会の側の両面から吟味する過程を保障する学習論」である。この学習論においては、授業は大きく3つのパートに分かれることとなる。

第Ⅰのパートは、個人（行為者）の側から仮説を設定する過程である。第Ⅱのパートは、児童の設定した仮説を社会のシステム側から吟味する過程である。第Ⅲのパートは、仮説の修正・再設定を通して社会の主体的形成者として、判断する過程である<sup>9)</sup>。

以下、具体的に単元構成を説明しよう。

#### 展開① 導入・問題把握

まず、江戸時代の大名の配置図をもとに、参勤交代の主たる対象である外様大名が江戸からの距離を考慮し、意図的に配置されていることを理解させる。そして、「（江戸時代の主な政策である）参勤交代はどのように行われていたのだろうか」という問いのもと、身近に感じることのできる加賀藩を取り上げる。その際、参勤交代が始まった理由、人数、役割、日数、行程、費用などを取り上げ、参勤交代の実施状況が把握できるようにする。

#### 展開② 個の視点からの仮説設定

本単元では、参勤交代という政策を評価することにより多面的な解釈を形成することを目的としている。そこでは、政策という手段の目的理解が不可欠である。そこで、「参勤交代を行った目的は何だろう」という問いについて、政策を行った徳川家光個人の立場から予想を立てる場を設定する。子どもは、個々に行った問題把握場面の知識をもとに根拠をもち、仮説を立てるであろう。また、仮説を補強できるように加賀藩前田利長個人の立場から見た参勤交代についても予想を立てるようにする。政策を実施した立場と従った立場の両面から、子ども相互に仮説を吟味することで、より確かな仮説を導き出す。

#### 展開③ 社会の視点からの仮説吟味

展開②では「大名への圧力、経済的弱体化」を目

的としたであろうという仮説が個の視点から導き出されてくるであろう。この仮説を当時の社会システム、つまり制度として表した「武家諸法度」から見ることで、視点を移動し、社会の視点で仮説を吟味できるようにする。視点を移動することで、結果として生じた経済的弱体化という仮説にとどまらず、日本の為政者としての客観的視点をもとに仮説を吟味することができるであろう。その際、江戸の具体的な様子を資料をもとに提示し、根拠を明確にもてるようにする。

#### 展開④ 仮説の修正・再設定

ここでは、政策の評価を行う。評価を行う際には、個の視点、社会の視点で吟味できるよう、政策の影響を受けるであろう立場を考えさせる。具体的な立場は、家光、利長、江戸の町人、加賀の百姓、街道沿いの宿場町の住人とし、政策の問題を明確化できるようにする。

### Ⅳ 単元「参勤交代」の開発

#### 1 単元の目標

- 参勤交代の起源、実施の様子や影響に関心を持ち、進んで調べようとする。  
【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 参勤交代による影響について思考・判断したことを言語などで適切に表現することができる。  
【社会的な思考・判断・表現】
- 参勤交代について、地図や年表、その他の資料を活用して、必要な情報を集めて読み取り、ノートや作品などにまとめる。  
【観察・資料活用 of 技能】
- 参勤交代の目的が主従関係の確認であることや参勤交代を原因として諸大名の経済的困窮、街道の発達、江戸の発展が結果として生じたことを理解する。  
【社会的事象についての知識・理解】

## 2 学習指導過程

過程	教師による発問・指示	期待される子どもの反応
展開① 問題把握	1 図「大名の配置」を見て、江戸幕府は、大名をどのように配置していますか。  2 「参勤交代の始まり」「参勤	(資料1「大名の配置」を見て答える) ・外様大名は裏切るかもしれない。だから、攻めてきても困らないように江戸から遠い所へ置く。 ・江戸の周りには、親戚の親藩大名や付き合いの長い譜代大名を置き、幕府を守ってもらう。 (資料2「参勤交代の始まり」資料3「参勤交代の様子」

	<p>交代の様子」「参勤交代の行程」「取りつぶされた大名」を見て、江戸幕府の政策である<u>参勤交代を加賀藩は、どのように行っていたのでしょうか。(学習問題1)</u></p>	<p>資料4「参勤交代の行程」資料5「取りつぶされた大名」を見て答える)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参勤交代は、母親が人質にとられていたことから始まった。</li> <li>前田利長は、高田や高崎、真田家、阿部家の領地を通過して13日もかけて江戸に行っている。</li> <li>江戸に行くには、多くの人数が必要だった2,000人から多いときには、4,000人だった。</li> <li>宿代、昼食代を計算すると、往復で約6億円になる。</li> <li>幕府の命令に従わなかったために、取りつぶされた大名が多くいる。</li> </ul>
<p>展開② 個の視点からの仮説設定</p>	<p>3 このように大きな政策である<u>参勤交代を行った家光の目的は何だろう。(学習問題2)</u></p> <p>4 「江戸城での参勤の様子」を見て、参勤交代を行った家光の目的は何だろう。</p>	<p>(各自の予想をノートに書く)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参勤交代をすれば、大名のお金がなくなって幕府の命令をきく。大名が反抗できなければ、安定した世の中が生まれる。</li> <li>忠誠心があるかどうかを試している。忠誠心があれば、お金を惜しまずにくる。</li> <li>江戸から遠くまで買いに行かなくても、地方の名産品が手に入る。</li> </ul> <p>(資料6「江戸城での参勤の様子」を見て答える)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くのお金を使わせるためだ。お金を使わせると武器を買うお金もなくて、幕府に反抗することができない。</li> <li>人質をとって命令をして、いろいろなことをさせるためだ。</li> <li>大名を監視をしないといけないから、お金をかけて参勤交代をさせて、忠誠心をみている。</li> <li>徳川御三家、外様の伊達家に続いて、加賀の前田家は、高い位にいる。利長もこのままでいるには、忠誠心を見せて参勤交代をしないといけない。</li> </ul>
<p>展開③ 社会の視点からの仮説吟味</p>	<p>5 「武家諸法度」を見て、<u>なぜ家光は「参勤交代の人数が多すぎるので少なくすること」という決まりを作ったのだろうか。(学習問題3)</u></p> <p>6 「江戸図屏風」を見て、参勤交代は、江戸幕府にとって不都合なことがあるのだろうか。</p> <p>7 「藩の財政の様子」を見て、参勤交代によって各藩にどんな影響があるのだろうか。</p>	<p>資料7「武家諸法度」を見て答える)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お金を使わせる目的ではなかった。多人数で来ると不都合があるのではないか。</li> <li>お金を払う余裕のない小さな藩のことを考えたのだろうか。</li> </ul> <p>(資料8「江戸図屏風」を見て答える)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの人数が来ても大丈夫なように、橋などを整備しなければならない。</li> <li>橋を多くの人数で通ると、町の人が通るのに時間がかかる。</li> <li>大名行列を見に来る人がいて、混雑をする。</li> <li>不都合なこともあるけれど、江戸の町は栄えている。参勤交代に来る人のお金で栄えた。</li> <li>人口が増えるから、多くの商売が生まれる。</li> </ul> <p>(資料9「藩の財政の様子」を見て答える)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参勤交代に6割もお金を使うと、藩の百姓が苦しい。参勤交代のために年貢を納め、働いていることになる。</li> <li>多くの人が江戸まで行っているのだから、藩は、政治を進めにくい。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・街道沿いの藩が栄え、江戸を中心とした交通網ができてくる。</li> <li>・藩の行列が宿にとまると多くのお金を払う。すると宿が充実する。そしてその町が発展する。国が発展することになると思う。</li> </ul>
展開④ 仮説の修正・ 再設定	<p>8 参勤交代という政策は、よい政策なのか、よくない政策なのだろうか。</p> <p>家光、利長、加賀の百姓、宿場の町の町人、江戸の町人、それぞれの立場で考えましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらかという、よい政策だ。大名を利用して江戸が発展しているからです。反抗できなくしているところもよい。</li> <li>・江戸の町人にとってはよい。なぜなら加賀の百姓は、参勤交代のために米をとられているのでよい政策ではない。</li> <li>・利長にとっては、よくない。多くの費用がかかる。長い間留守にしている加賀藩の政治をすることもできない。百姓に不満もでると思う。</li> <li>・幕府にとってはとてもよい。大名が命令をきいて、江戸も栄える。ただ、小さな藩には負担だ。百姓の気持ちを考えると、藩には幕府に反抗する気持ちがでてくるかもしれない。</li> <li>・よい政策だと思うのは、街道沿いの宿は栄えるところです。1年おきに多くの人が泊まるのでわかる。よくない政策だと思うのは、街道沿いの藩や江戸ばかり栄えて各藩は出費が多くて苦しいところです。</li> </ul>

#### 資料

- 1「主な大名の配置」：『新しい社会 6 上』東京書籍，2014年 検定済み，79頁。
- 2「参勤交代とは」：『社会科資料集 6 年』文溪堂，2013年，59頁。
- 3「参勤交代の様子」：同上，58～60頁。
- 4「参勤交代の行程」：同上，58頁。
- 5「取りつぶされた大名」：『新しい社会 6 上』東京書籍，2014年 検定済み，78頁
- 6「江戸城での参勤の様子」：山本博文『江戸城の宮廷政治』講談社文庫，1996年，140頁。
- 7「武家諸法度」：『新しい社会 6 上』東京書籍，2014年 検定済み，80頁。
- 8「江戸城図屏風」：『新しい社会 6 上』東京書籍，2012年 検定済み，72～73頁。
- 9「前田家の予算」：『社会科資料集 6 年』教育同人社，2014年，62頁。

## V 授業の実際

ここでは、2014年富山大学附属小学校 6 年 1 組で実施した授業記録から、子どもの具体的な反応を記載し、分析したい。

### <展開① 問題把握>

第 1 時「参勤交代はどのように行われていたのだろう」

#### 学習問題 1

#### 参勤交代はどのように行われていたのだろう

戦国時代から江戸時代へのつながりを考え、「戦国時代はどのような時代だったか」「江戸幕府の周りは、どのような様子だったのだろう」を考えたあと、上記の学習問題を考えていく時間とした。資料

から子どもたちが読み取ったことは以下の通り。

- ・加賀藩の参勤交代は、人質に会いに行くことがはじまり。
- ・13日かけ、他藩を通して江戸に行く。
- ・参勤交代の人数は2,200人から多いときには4,000人。人払いや道具をもつ仕事、槍をふる仕事があったり、医者が同行したりと大がかりなものだった。
- ・幕府の命令にしたがわないときには、取つぶされた家がある。

この後、各自、参勤交代をどのようなものだと考えたか、ノートに書いて授業を終えた。授業後の H 児のノートには、家光の立場に立ち、参勤交代の負

担に着目していることが分かる。

参勤交代は江戸幕府の家光による政策で、大名を味方にするためのとてもすぐれたものだと思います。それに利長が持ってくるものでもわかるから一石二鳥だと思います。

【H児のノート】

＜展開② 個の視点からの仮説設定＞

第2時「家光は、どんな目的で参勤交代を続けさせたのだろう」

前時の学習を引き続き行った。I児は「参勤交代をすると何がよくなるの？何がいいのか分からない」と発言した。そこで、参勤交代について更に詳しく見ていくために、資料をもとに持ち物や多くの人数で移動する際の時間や費用を確かめていった。

ここでは、おおよその宿泊代や昼食代、川越えの費用などを提示し、子どもたちが計算をしていった。およそ6億円という数字に行き着き、多額の費用がかかっていることに気付いていった。

子どもたちが参勤交代の概要をとらえ、費用の大きさに驚いているところで、「参勤交代の目的は何だろう」と問い、それぞれの予想をワークシートに書く時間をとった。

学習問題2

家光は、どんな目的で参勤交代を続けさせたのだろう

この発問に対して、家光という個の視点から仮説を立てる姿が見られた。有力な仮説を並べると次のようになる。

仮説1「家光は、大名に費用を使わせて幕府に反抗できないようにしたいから」 32%

子どもの仮説は、これが最も多く、自分たちで計算した費用の大きさを根拠としている。

仮説2「家光は、人質をとって反抗させないようにするため」 31%

加賀藩の参勤交代の契機となる、芳春院の人質を根拠としている。戦国大名がこの人質という方法を多く用いていたことや江戸での役割を果たすことへの強制性をもとにしていることがうかがえる。

この2つの仮説で全体の6割を超えている。

仮説3「珍しい土産がほしいから」 20%

子どもたちは、江戸から10日以上もかかる加賀からの土産にはよいものがあり、交通も発達してい

なかったため貴重だったと考えている。また、加賀藩と幕府の上下関係を考え、参勤交代で将軍に献上するものは特によいものであったと考えている。

これらの仮説1～3が全体の8割を超える。

仮説4「忠誠心があるかを試している」 8%

外様大名が江戸から遠くに配置されていることをもとに考え、裏切らないかどうかを監視する制度であったと捉えている。

この他に、宿場町が栄えると考えた子どもが3名、江戸が栄えると考えた子どもが1名いた。

＜展開③ 社会の視点からの仮説吟味＞

第3時「なぜ、家光は武家諸法度で、参勤交代の人数を減らせといたのだろう」

まずはじめに、第2時に立てた仮説をもとに話し合いを行った。

仮説1「お金を使わせ、反抗を防ぐためである」という意見に対し、「幕府にしたがって残った大名でよい国をつくる」という考えが付け加わった。さらに仮説3「特産品をもらうためである」という意見に対して「特産品をもらうなど、直接会って忠誠心を見ている」という仮説4の考えが付け加わった。そして、仮説2の「逆らったらつぶすことができるし、人質で命令をきかせることもできる」などを加え、家光が加賀藩を支配する構図が明確になっていった。(板書A)

また「街道沿いの宿が発展する。そして、将軍への信頼が高まる」といった家光が日本の為政者として政策を行っていたのではないかと仮説も挙がった。

一方、子どもたちが共感的になりやすい地元加賀藩の前田利長の立場で発言し、それらの仮説を補う意見も挙げられた。「参勤交代によって、お金や人手をとられると苦しい。」「戦国時代の後で、藩が整っていないのに、農民が働いたお金で参勤交代をするのはいやだと思う。それでも家光とよい関係を保ちたいから続けている」など、個の視点からの仮説吟味により、「大名の経済力弱体化」と「大名の徳川への臣従確認」が有力な説となった。(板書B)ここまで話し合われてきた「個の視点からの仮説」を社会の視点から吟味する過程がここからである。

そこで、大名の経済力弱体化を検証するために、資料「武家諸法度」を提示した。(板書C)

武家諸法度の資料提示から読み取れる「参勤交代の人数を減らすこと」という内容は、大名の経済力

弱体化の目的では、説明のつかない事象である。家光や利長といった視点から江戸や宿場町の町人、百姓へと視点移動をし、多様な解釈へと向かうためにこの発問を行った。

### 学習問題 3

なぜ、家光は武家諸法度で、参勤交代の人数を減らせといったのだろうか

子どもたちは、「なぜだろう」と問題意識を高め、参勤交代の目的を考え始めた。(板書 D・E) ここでは、資料「江戸図屏風」を提示し、具体的なイメージをもって考えられるようにした。すると次のように江戸町人の視点からも発言が続いた。(板書 F)

- ・参勤交代で多くの人数が来たら、橋がいたんでしまう。(交通に関する建造物)
- ・江戸時代は、木造の橋なので、こわれやすい。(交通に関する建造物)
- ・大名行列を見に来て、町の人が集まり仕事をしなくなる。(見物による渋滞)
- ・江戸の町は栄えている。人がよく通るので、大名行列がくると橋を通りたい人が通れなくなる。通るのに時間がかかる。(交通渋滞)
- ・大名行列をずっと待って時間がたち、魚が新鮮でなくなる。(渋滞による物流の停滞)
- ・江戸の町は参勤交代のお金で栄えた。多くの人数でくると交通がめちゃくちゃになるかもしれない。参勤交代は多くの人数で来てほしいわけではなく、幕府との信頼を築くためだと思う。(信頼関係を目的として付随的に起きた江戸の発展)
- ・渋滞はいつものことだと思う。だから減らしたい。今の東京みたいになっている。(江戸の中心都市化)

家光の政策である参勤交代を目的を達成するための手段と捉えていた子どもたちは、参勤交代を原因として生起する結果を想定するようになっていった。例えば、参勤交代の人数を減らす原因となった「交通渋滞」についての発言、参勤交代による江戸の発展についての発言があり、資料提示前とは異なった解釈がなされている。また、参勤交代の人数を多くして経済的弱体化を図る目的を仮説から外し、忠誠心という仮説に立ち戻る姿も見られた。

### <展開④ 仮説の修正・再設定>

第4時「家光は、どんな目的で参勤交代を続けさせたのだろうか」

「参勤交代は、よい政策だったのか、それともよくない政策だったのだろうか」

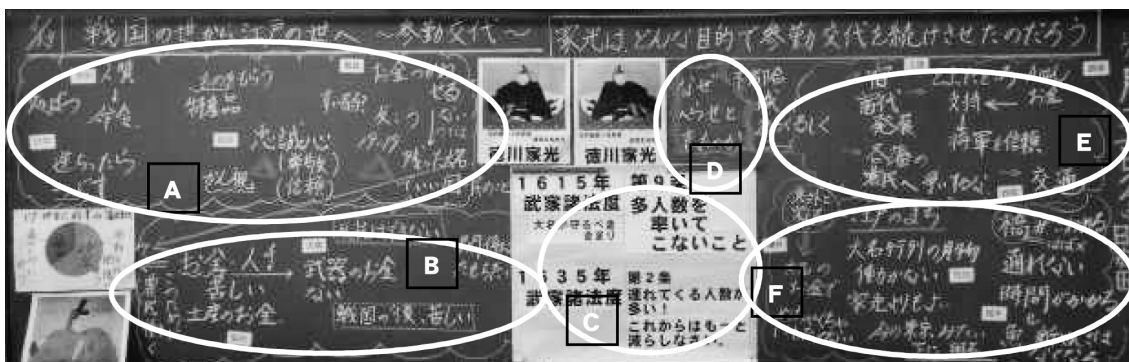
学習のまとめとして新聞を作成した。単元で扱った様々な立場で参勤交代について考えることとした。授業で扱った立場は、授業で扱った順に「家光、利長、加賀の百姓、宿場町の町人、江戸の町人」である。各立場からみた参勤交代について考え、最後に政策のよしあしを判断させた。

## VI 授業による子どもの認識変容

### 1 全体の認識変容

単元最初の子どもの仮説と単元終了時の子どもの仮説がどのように変容したかを比較した。すると次頁の表にみられるように、視点が増えていること(59→99)が分かった。

単元最初の考えを見てみよう。まず「経済弱体化」が家光の目的だという仮説が32%である。「お金を払わせて大名が幕府に反抗できないようにする」「財産が少なくなれば戦をしようとする気力やお金もなくなり、むほんをする大名がいなくなる」などの記述が見られた。宿泊費用、馬代、宿泊が変更になった際のキャンセル代、持参品、供の人数、日数



【第3時 板書】



表 1 本単元における子どもの認識の変容

	大名に対して				町人に対して				百姓に	合計
	経済弱体化	圧力	土産	忠誠心・信頼	宿場町	江戸拡大	交通網	商業発展	税負担	
(最初) 家光の目的	19(32)	18(31)	12(20)	5 (8)	3 (5)	1 (2)	0(0)	0(0)	0 (0)	59(100)
(最後) 家光の目的	17(23)	14(19)	4 (5)	9(12)	4 (5)	19(26)	3(4)	3(4)	1 (1)	74(100)
社説：政策評価	15(15)	6 (6)	3 (3)	5 (5)	12(12)	17(17)	3(3)	8(8)	30(30)	99(100)

※児童数39名、( )内は%の数値、小数点以下は四捨五入により100%にならない場合もある

などを細かく学んだことや群雄割拠の時代が終わった直後であるという時代背景を根拠に作り出された仮説であろう。

次に大名への「圧力」が目的だという仮説が31%である。「人質をとってれば前田家は反乱を起こすことができまい!」「母親がさみしくなるから、江戸へ来て元気をあげなさい」「参勤交代をしないと人質を殺すぞ」など、家光の視点での記述が見られた。戦国時代の人質や婚姻が有効であったことを根拠とした仮説であろう。

3番目に多い仮説は、「土産」である。「参勤交代がずっと続けば大名が持ってくるお土産やお金で幕府はもうかる」「わざわざここ(江戸)まで来てお土産までくれる」「家光は江戸から出られないと思うから、前田家の加賀のめずらしいものをもらえる」などの記述が見られた。本実践では、参勤の際に幕府側からもたらされた物については学習していない為、一方的に幕府が土産をもらうという認識が見える。「参勤交代はどのように行われていたか」という問いは答えとなる事実が多すぎるため、必要な知識に限定した結果、このような仮説が生まれた。この点は今後実践する際に検討が必要であろう。しかし、子どもが「3代目の家光が為政者として江戸にとどまり政治を行っていただろう、交通網がまだ発達していないであろう」と時代背景をイメージできたことが分かる。また子どもは、戦国時代の学習において、織田信長が武田信玄に対し、低姿勢で贈り物を渡し続けることで、戦を避けたことを学習した。それ故、子どもたちにとっては贈り物が大名にとって貴重なものであると認識されている。贈り物がうれしいという子どもらしい価値が入った仮説であろう。この3つの割合は、全仮説の83%であった。家光と利長の関係から解釈をしていることが分かる。

次に単元最後の仮説を見てみよう。全く同じ問い「家光は、どんな目的で参勤交代を続けさせたのだろう」についての仮説では、最も多い仮説が「江戸

拡大」で26%である。「江戸に人質として妻子を住ませて1年おきに大名たちが来てその費用で江戸は栄える」「参勤交代で(他藩から)来れば江戸の城下町が繁盛する」などの記述が見られる。Y児も次のように「江戸拡大」について書いている。

わたしが参勤交代をやる目的は、江戸の発展のためだ。参勤交代のために来た利長たちに江戸の工事をしてもらい、もっと江戸を発展させたいからだ。利長は工事の負担をおい、武器などを買えなくなり、わたしに反抗がだきなくなるぞ。なぜ、武家諸法度で多人数を率いてこないこととしたかは、わたしがせっかく江戸を発展させようとしておるのに参勤交代で大名行列が多人数でくると町の皆が見に来てしまい仕事どころではなくなってしまふからだ。きまりをだしてもなぜ、利長は多人数で来るのだ。

次に多いのは、「経済弱体化」で23%、3番目が「圧力」で19%となり、3つの割合は68%である。最も有力な仮説が変わったことから、仮説の修正・再設定されたことが分かる。さらに上位3つの仮説が8割を超えていた状態から7割に変わり、その他の解釈が増えたことが分かる。「忠誠心・信頼」は8%→12%へ、「大名が通る道や橋の整備が進む」「目的は(大名が)通るところの交通の便をよくしたり…」などの記述に見られる「交通網の発達」は0%→4%へ、「大名が通ることでお店が発達する。江戸の町も発展するとみんなが私を支持してくれる」「各藩の店が発展する。しかしお金がものすごく減り藩の力が弱まってしまう。だから武家諸法度を出した。ちゃんと日本全体が高まっていくようにした」などの記述に見られる「(江戸・地方、双方の)商業の発展」は0%→4%となった。

このように、江戸拡大のために政策を行ったという視点が増え、巨大消費都市が誕生したこと、各藩が貨幣をもって江戸にいく社会が成立してきたこと、



わたしは2つの立場から見てみました。  
 まず加賀の百姓からはよくないと思います。  
 理由は、お金をたくさんとられ、そのお金も自分たちにまわってこないからです。次は町人です。町人にとってはよいと思います。理由は、たくさんの人がとまってもうかるからです。  
 わたしはこのことから、この政策はあまりよくないと思います。片方がよい思いをして、片方が悪い思いをすることはよくないと思うからです。

参勤交代を評価する際には、加賀藩の百姓という立場、街道沿いの町人という立場から判断を行っている。家光と利長の関係を武家諸法度を通して捉えたため、評価をくだす際には、他の立場を用いたのであろう。この傾向は、全体の傾向と一致しており、39名のうち、30名が百姓の立場を通して評価を行った。

T児においては、参勤交代の目的を今一度、考え直すとともに、参勤交代を評価することによって、多面的に事象を見ることができたと考える。

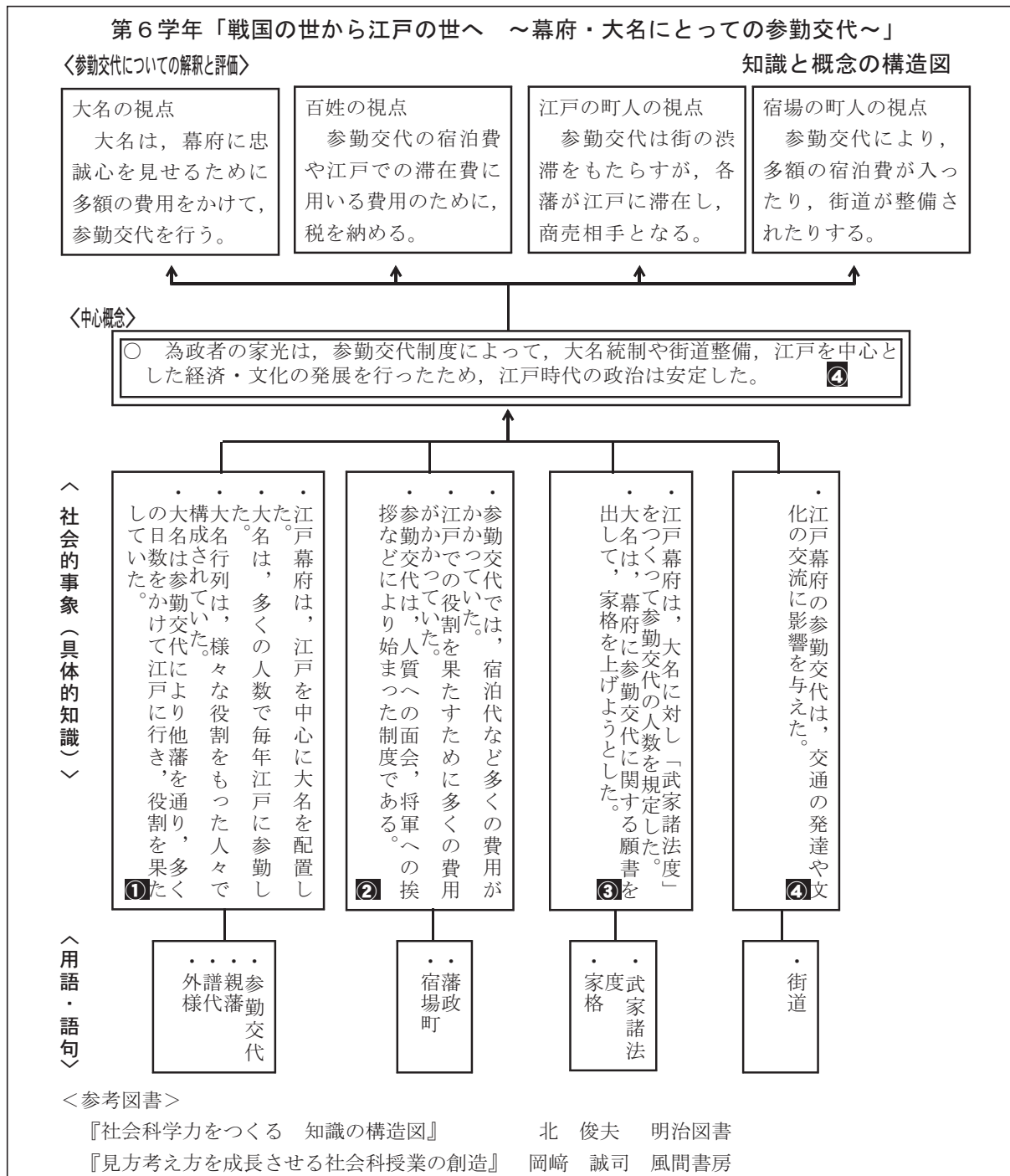


図5 知識と概念の構造図

## VII 授業開発の成果と課題

本実践では、仮説吟味学習で単元を構成することによって子どもはそれまでの目的手段関係ばかりではなく、因果関係からも社会的事象を捉え直し、多面的解釈を形成している。特に、以下4つの手立てが有効だったといえる。

### 1 成果

#### ① 知識と概念の構造化

前頁のように、知識や概念の明確化により、子どもにどんな具体的知識を獲得させるべきかが明

らかにになり、一人一人の子どもがどの視点で事象を見ているのかを捉えることができた。授業者が、中心概念に向けてどのように授業を展開するかを考える際の手掛かりとなった。

#### ② 知的好奇心の喚起（矛盾の顕在化）

今回の実践では、参勤交代は「大名の経済力弱体化を目的としたものである」という仮説と矛盾する資料として「武家諸法度」を提示した。子どもたちは驚き、知的好奇心を喚起されるとともに、視点を移動して思考する姿が見られた。歴史学習

# 参勤交代新聞



( ) 番 名前 ( )

1 参勤交代とは？

江戸に、大名たちが人質をおいて1年おきくらいに合っていくことです。参勤交代をするために、多くの出費が必要でした。そして、江戸へ行くときは、行く道にある大名たちの家々によって、江戸まで行きました。

2 直撃！将軍に、目的をインタビュー

武家諸法度が出される前 } 武家諸法度が出された後  
 たくさんの人をつれてきて、お金をど } 江戸の町がこんごって交通がし  
 んどんつかわせて、武器をかうお金 } にくいなあ。参勤交代に来る人が  
 をなくて幕府に被害を出させない } ぬすぎる。多人数でこられて道がふさ  
 ようにしたいんだ。たけど…… } がれ送)ものがすく)にこない。



3 外様大名 加賀藩 前田利長公にインタビュー 江戸幕府 3代将軍 徳川家光

武家諸法度が出される前 } 武家諸法度が出された後  
 江戸の家光様に失礼のないよう } 多)から少なく)ると言われた……。け  
 にたくさんの人をつれて、忠誠 } れど5人くらい)いたら、加賀百  
 心を表そう。お金はかかるが、それは } 万石といわれている私のプライド  
 百姓からお金をとろう。 } がきず)つけられる。人は減)らした。



4 周囲の人々にとっての参勤交代は？

ああ、橋を渡って向こう側にお魚をおくりたいのに参勤交代の行列があるからすぐにおくれないじゃないか。魚は新せんさが命なのに、新せんじゃなくなったら意味がないじゃないか。もしこれが家光様のた)たら、私は届けるのがお)くれて、しかも新せんじゃなくてお)られるじゃないか。もっと人を少なくしてくれ。



町人（江戸）

加賀のた)め、64% } 道路の修理や提防の工事 } 宿場の応援 } 参勤交  
 お金、36% } 全て手作業でや)ってと)もつか } ているのに、お)金を使 } 代)のため  
 不便)から金 } るし、他に)もやること } いる大名のために宿 } にくるい  
 はイヤ)男)しかお)金も全然)もら)ない } をやら)なくて)ち)い)ける } 思い)さ  
 ません……。 } ません……。 } (LUCY)



百姓（加賀）

たくさんの人)が来てくれるから、お)金)もらえて、と)ても)もう)か)って)う)れ)しい。でも、い)は)い)来)すぎ)て)少)し)大)変)だ。でも、大名)の人)が)と)まる)こと)で、評判)も)よ)くな)って、他の)大名)や)他の)人)たち)も)と)ま)て)く)れる)から、大)変)だ)も)は)ん)じ)ょう)して)う)れ)しい。席)を)発)展)する。



町人（街道沿いの藩）

5 社説 「この政策は、よい政策か、よくない政策か」

私は、2つの立場から見てみました。まず加賀の百姓からは、よくないと思います。わけは、お金をたくさんとられ、そのお金も自分たち)に)ま)わ)て)こ)な)い)から)です。次)は、町)人)です。町)人)に)と)て)は)よ)い)思)い)ます。わけは、た)さん)の)人)が)と)ま)る)こ)う)か)る)から)です。私は)ふ)つ)の)こ)と)から、この)政)策)は、あ)ま)り)よ)く)な)い)思)い)ます。片)方)が)よ)い)思)い)を)し)て、片)方)が)悪)い)思)い)を)す)る)こ)と)は)よ)く)な)い)思)い)う)から)です。

発行日 平成26年6月 20日

【T児の単元後の仮説】

における興味関心は、個人差や男女差が大きいいため、意欲を高め、思考を活性化させるために、矛盾を生む資料提示は大切である。

### ③ 具体的な場面設定による仮説の質の高まり

視点を移動し、仮説をつくる際には、根拠となる資料が必要である。第3時では、子どもの中に、参勤交代の目的について新しく仮説を立てる必要感が生まれた場面があった。そこでは、江戸図屏風を示し、「もし、各藩が多人数で参勤交代を行い、江戸の町に来るとしたら…」というイメージをもてるようにした。子どもは資料を根拠にしなが、因果関係から江戸の町の様子を為政者の立場や江戸の町人の立場になって考えることができた。

歴史学習では、このように具体的な場面を設定し、子どもがイメージをもって考えることができるようにすることが大切である。

### ④ 子どもが政策を評価する場面の設定

解決策を評価する能力（政策批判能力）の育成を意図して、政策評価を行う場面を設定した。子どもが作成した新聞（前頁に例示）を見ると、参勤交代の目的を考える場面では用いなかった見方、なかでも加賀の百姓の立場から考える姿が見られた。子どもの価値観に基づき評価を行わせることで、知識を再構成して多面的に事象をみる態度を育てることができるといえる。

## 2 課題

今回、授業実践を通して新しい単元の開発を試みた。まず、参勤交代という歴史事象について、目的手段関係ばかりではなく、因果関係からも説明・予測できるように授業を構成した。そして、多様な解釈を行う場も設定した。しかし、江戸時代の社会の体制をとらえる、つまり「時代解釈」は明確化できていない。参勤交代は、江戸時代の街道整備や町人文化の発展と関係が深く、江戸時代の特色を学ぶことのできる事象であると考えられる。ただ、現時点では、江戸の社会を説明する枠組みを学び取らせる歴史授業というには不十分であり、今後実践を重ね、改善を加えたい。

## 【註】

- 1) 「徳川家光と江戸幕府」安野功編著『小学校社会科活動と学びを板書でつなぐ 全単元・全時間の授業のすべて 小学校6年』東洋館出版、2006年、83～97頁。
- 2) 「戦国の世の統一と江戸幕府の始まり」安野功編著『新版小学校社会 板書で見る全単元・全時間の授業のすべて6年』東洋館出版、2012年、87頁。「江戸幕府の確立」歴史教育者協議会編『明日の授業に使える 小学校社会科6年生』大月書店、2011年、62頁。「江戸幕府の全国支配」安野功編著『社会科 全時間の授業プラン6年①』日本標準、2012年、82～83頁。「徳川家光と江戸幕府」『楽しい社会科の授業づくり 小学校6年』東洋館出版、2002年、74～83頁。
- 3) 前掲書1) では、家光の行為すなわち政策を対象として目的論的理解を図り、最終的には政策の社会的意味の理解を図っている。
- 4) 一般的な解釈としては、参勤交代の目的は、「大名の経済力弱体化」と「大名の徳川氏臣従」であるとされてきた。（藤井譲治『日本の歴史⑩江戸開幕』集英社、1992年、194頁）
- 5) 山本博文『参勤交代』講談社、1998年、64～73頁。山本博文「参勤交代と江戸の生活－武士とときたり－」『江戸時代を〔探検〕する』文藝春秋、1996年、42～68頁。
- 6) 岡崎誠司『変動する社会の認識形成をめざす小学校社会科授業開発研究－仮説吟味学習による社会科教育内容の改革－』風間書房、2009年。
- 7) 「判断力」森分孝治・片上宗二編『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書、2000年、124頁。
- 8) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版、2010年、78頁。
- 9) 前掲書6)、32～34頁。

(2015年8月24日受付)

(2015年12月9日受理)

